

オオミドリシジミの産卵行動

谷角素彦*

1979年6月24日、豊岡市戸牧^{とほ}で、オオミドリシジミ (*Favonius orientalis* MURRAY) の産卵行動を目撃したので報告する。当日は真夏を想わせる暑い日で、会友の石田達也氏と戸牧より但馬文教府へと続く遊歩道で昆虫の姿を追っていた。午前11時頃、遊歩道と雑木林の境界附近を、まるでヒメウラナミジャノメのような落ち着かない様子で、附近の藪に潜り込んでまた飛び出すオオミドリシジミ1匹を発見し、暫く観察した。以下にその概要を述べる。

行動範囲の中心は、樹高50センチメートルぐらいまで、半径約2メートルの灌木の茂みで、ここにはオオミドリシジミの食草となるコナラの幼木も存在する。この遊歩道の南側は開けていて日当たりが良く、灌木内も概して明るい。この灌木に隣接する場所に小さな墓石があり、ここまで行動範囲は及んだ。

オオミドリシジミは、この灌木に執着している様子で、さかんに往来して茂みの中に飛び込んだりした挙句、緑の葉上に静止する。この際、触角をしきりに上下運動させ、また左右の翅をこすり合わせる動作をとることもある。その葉がコナラでない場合は、落ち着きなくすぐに飛び立つ。時折、墓石の上に舞い降り、翅を全開に近い状態にし(写真参照)、日光浴をする。運良く(?) コナラに止まった時には、やはり触角を上下し、前進して葉裏に潜り込むようにして枝にとりつき、頭部を下にして腹部を曲げて産卵する。産卵を終えると飛び立ち、同じようなパターンの行動を繰り返した後、別のコナラにとりつき、計3度の産卵を行なう。これら一連の行動に伴う飛翔の速度はきわめてゆっくりしたものであった。

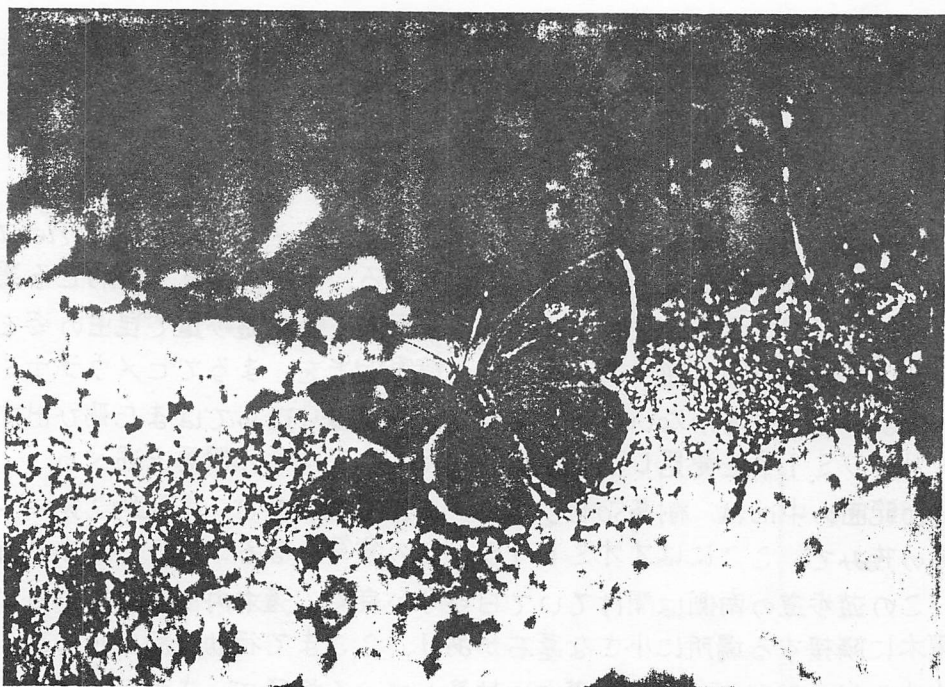
産卵されたコナラは、樹高30~50センチメートルの幼木で、産卵場所は、直径1~3ミリメートルの小枝分岐点および休眠芽基部。卵数は8、同一の木からは最高2卵確認^{xxx}。なお、8卵のうちの何卵かは、観察前に既に産まれていたものと思われる。

また、この蝶の産卵は午後に行なわれるというが(福田ほか, 1972)、今回観察したのは、午前11時より11時20分にかけてであり、注目される。

* 現住所 〒567 茨木市

※ 他にはブナ科植物はなく、食草となるのはコナラのみみられた。

xxx 母蝶は同じ木にばかり産卵せず、何度も同じようなパターンの行動を繰り返し複数[※]の木、枝に産み分けていることになるが、卵の安全面からこの問題はアブローチ出来そうである。



墓石上で日光浴をするオオミドリシジミ♀

参考文献

福田晴夫ほか、1972、原色日本昆虫図鑑Ⅲチョウ編、保育社、大阪

マチカネワニ

マチカネワニも
おマチカネ!?
IRATSUME 第4号
ついに 発刊!!
早速 第5号に向けて
原稿を募集します!
おマチしていますので
よろしく